

企画セッション

◆ 生成 AI を活用したこれからの知財実務 ◆

【概 要】

本企画セッションでは、近年急速に進化している AI 技術にフォーカスし、特許文書の作成や中間応答、特許要約や分類といった多岐にわたる知財業務を支援する生成 AI ツールが、今後知財実務に及ぼす影響について議論を行う。

現に、AI による特許情報の処理・分析から、明細書の作成支援、さらに明細書の修正までを効率的に進める技術が登場しており、今後の知財業務において大きな変革が期待される。

具体的には、企業知財部門や弁理士が発明の概要を AI エンジンに投入することで、特許出願書類に沿ったアウトプットの生成やデータに基づいた自動的なフローチャート生成等が行われ、効率的かつ正確に明細書へと反映されることが可能になりつつある。このような技術進展がもたらす利便性により、知財業務における負担軽減やコスト削減が期待される一方、現状の生成 AI においては活用方法やプロンプト設計によって成果が大きく異なる点も課題として浮上している。

生成 AI の導入が不可逆的に広まり、業務効率化が図られる一方で、現場の AI 利用者からはシステムのセキュリティ問題やユーザー教育の必要性、分野による AI 成果の品質差など、AI ツール活用における現状の課題も出てきている。

これらの現状を捉えたうえで、今後、知財業界において AI ツールがどのように普及し、実務に馴染むのか、また AI を利用することで知財業務のスピードと精度が向上することにより、企業間の競争優位にどのような影響を与えるかについても探求する。

このセッションでは、特許事務所で知財業務に従事する弁理士や AI ツール開発に関わる専門家3名が集いディスカッション方式で、AI によって変わりゆく知財業務の未来を見据えた実務的な視点から、知財業務の進化と弁理士のキャリア形成における新たなスキルセットの構築方法についても議論を深める予定である。

企画セッション

◆ 生成 AI を活用したこれからの知財実務 ◆

【講演者】

モデレーター：

上池睦（株式会社知財塾 代表取締役社長、Smart-IP 株式会社 取締役兼 CRO）
東京理科大学専門職大学院イノベーション研究科知的財産戦略専攻を修了後、2015 年サイボウズ株式会社に入社。知財業務をメインとして体制整備などを行い、2022 年からは開発部門に移り、エンジニアと近い距離で特許業務に従事。また、2021 年 1 月に知財実務教育事業を行う知財塾を設立し、代表取締役社長に就任。2022 年 7 月に知財業務の DX 化を推進する Smart-IP 株式会社取締役に就任。

パネリスト：

大瀬佳之（パテント・インテグレーション株式会社 代表取締役 CEO、I P T e c h 弁理士法人）

生成 AI を利用した孤独な知財担当者に寄り添う AI アシスタントサービス「サマリア」を 2023 年 4 月から提供。特許検索・特許分析サービスの「パテント・インテグレーション」、商標情報サービス「ブランドテラス」などを運営。IoT・サービス関連の特許実務を専門とする弁理士。企業向けオンライン学習講座の Udemey において、受講者数 2,313 人以上の『初心者でもわかる特許の書き方講座』などを運営。

川上成年（株式会社知財デザイン 代表取締役社長）

東京工業大学大学院理工学研究科生産機械工学専攻修了後、日本電気株式会社にて生産機械の設計・製造業務に関わる。弁理士試験合格後、特許事務所で特許出願実務に関わる。東京農工大学 MOT にて鶴見・新井両教授と共に㈱知財デザインを設立。現在、㈱知財デザイン代表取締役。弁理士。

平井智之（Tokkyo.Ai 株式会社 取締役 COO）

2018 年立教大学大学院法務研究科修了後、リーガルテック株式会社に入社。法務部、第三者委員会や米国民事訴訟（e ディスカバリ）関連事業を経て、子会社 Tokkyo.Ai 株式会社の取締役に就任。特許 AI ツールの開発・セールス・マーケティング等事業全体をディレクション。